

Web メールによる学外からの E-mail

総合情報処理センター 佐藤友暁

tsato@cc.hirosaki-u.ac.jp

1. はじめに

E-mail は大学の教育・研究・業務において重要な通信手段である。最近は、大学からの帰宅後や出張・外出先において E-mail の受信や送信を行いたい要望が多くなっている。総合情報処理センターでは、セキュリティ上の観点から、学外からのメールサーバへのアクセスは遮断していた。その代わりに学内宛てに届いたメールを学外で受信するためにプロバイダ等にメールを転送するサービスを提供してきた。

総合情報処理センターでは 2007 年 2 月の計算機システム更新の際に、外出先等から自由に学内メールを送受信できる環境として Web メールであるトランスウェア社の Active! mail [1]を導入した。導入から 1 年が経過した現時点においても、Active! mail の導入の周知を行ってきたがプロバイダ等へのメール転送設定の依頼は以前として総合情報処理センター宛てに上がっている。このため本稿では、Active! mail の利便性をさらに周知することを目的として、外出先からの Active! mail の活用方法を紹介する。

2. Web メールシステムの概要

Active! mail は、Internet Explorer、Firefox、Safari といった web ブラウザを E-mail のクライアントソフトとして使用する Web メールシステムである。図 1 に示すように、インターネットが接続できる環境があれば、web ブラウザで総合情報処理センターの Web メールサーバへ接続することで E-mail の受信や送信が可能である。Web メールサーバへの接続は、ADSL (Asymmetric Digital Subscriber Line) や光回線と呼ばれる FTTH (Fiber To The Home) からの接続だけでなく、携帯電話からの接続も可能である。今日ではホテルや旅館等に自由に使用できるパソコンが設置されていたり、国内や国外の各地でインターネットカフェが営業されていることもあり、パソコンを持ち歩かなくても電子メールの送受信が可能である。

総合情報処理センターで導入されている Active! mail のサーバへ接続すると図 2 の画面が現れる。ここで総合情報処理センターのユーザ ID とパスワードを入力するとサーバへの接続が開始される。メール受信タブをクリックすると図 3 の画面が表示される。図 3 の画面から、Active! mail で表示される web ページは一般的なメールクライアントソフトのインターフェースとそれほど相違していない。

Active! mail のサーバへ接続する際には、web ブラウザに URL アドレスを入力する必要がある。このアドレスは総合情報処理センターのホームページにアドレスが記載されている。また詳細な使用方法と概要[2]は、前号の HIROIN に掲載されている。

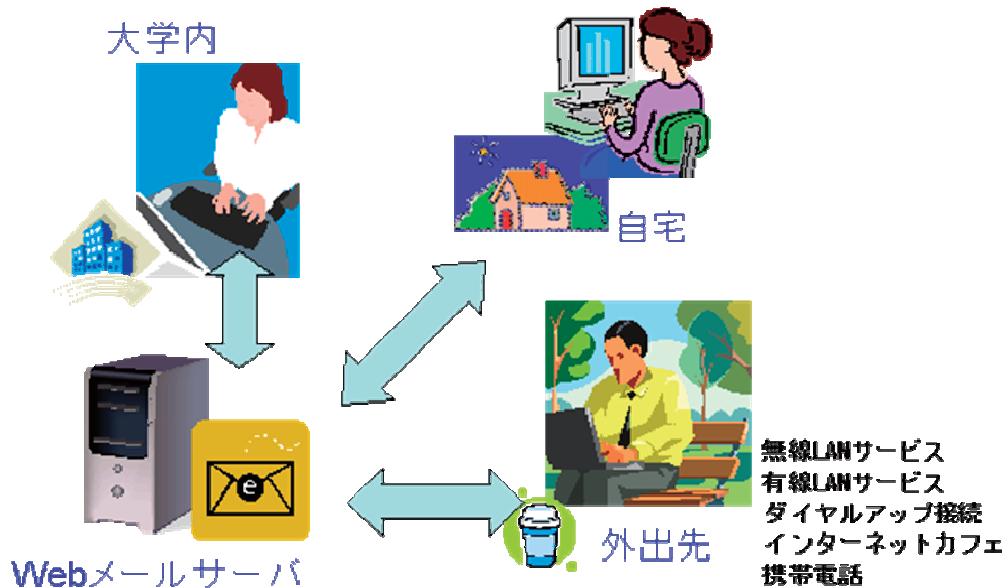


図 1 Web メールシステムの概要

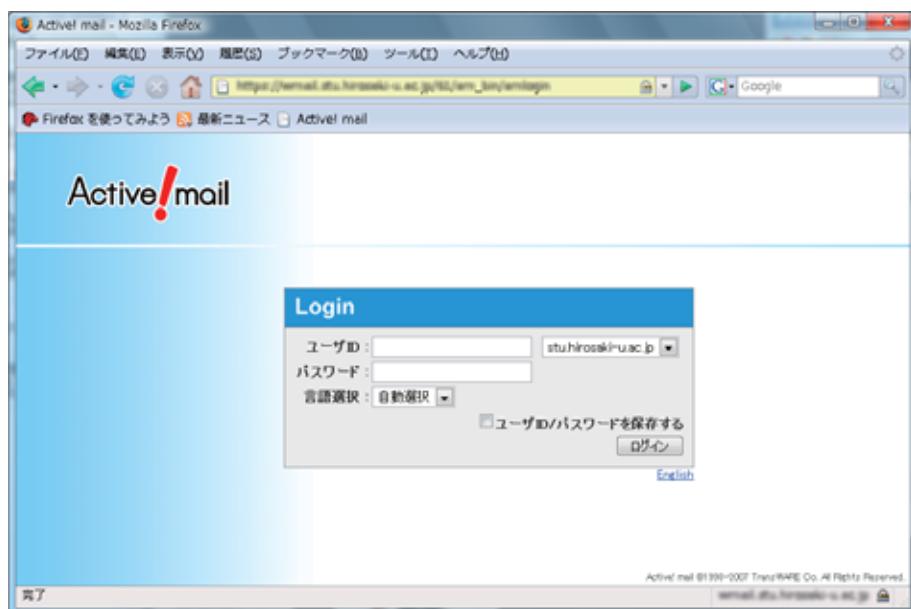


図 2 Active! mail ログイン画面

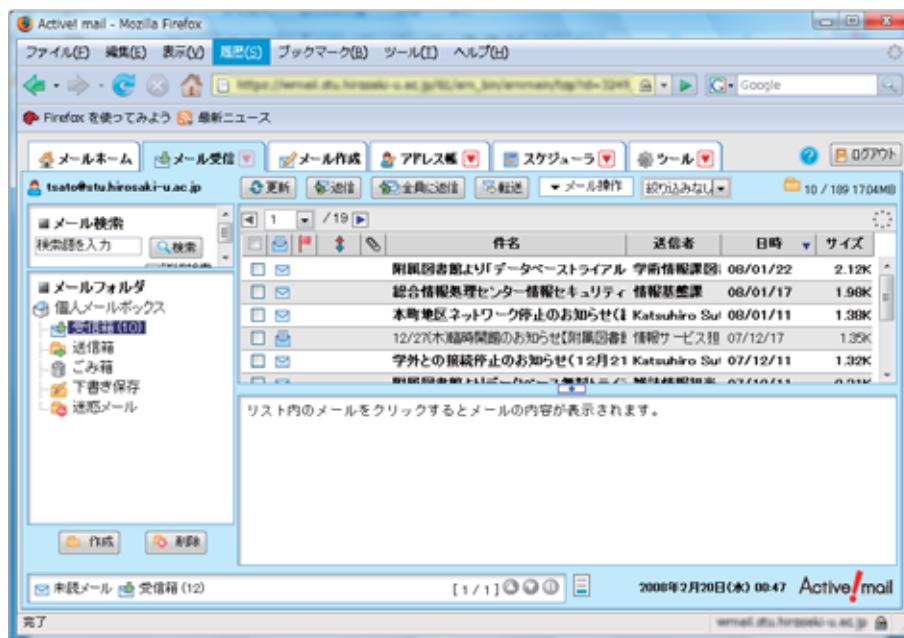


図3 Active! mail 受信画面

3. 外出先からの活用方法

Web メールはインターネットへ接続できる環境と web ブラウザがあれば使用できる。このため Web メールを使用することで帰宅後や外出先からでも容易にメールの送受信が可能である。また、最近の携帯電話や PHS は Web ブラウザが搭載されており、またインターネットへも接続が可能である。このため携帯電話から、大学へのメールの送受信も可能である。送信する際に相手に表示されるアドレスは当然弘前大学のメールアドレスになる。

3.1 モバイル機器による接続

携帯電話等のモバイル機器から Active! mail を使用する際には、これから述べる設定が必要である。Active! mail の「ツール」タブをクリックすると、図4に表示される Active! mail の設定画面が表示される。ここで「モバイル設定」をクリックすると図5に表示されるモバイル向けの Active! mail の設定画面が表示される。

図5の画面上では、名前と署名の2か所の設定が必要である。名前は差出人 (From)に表示される氏名である。これらの設定が終われば、「適用」ボタンをクリックする。図5の画面のように「適用」ボタンが表示されていない場合は、スクロールバーを下に移動させることで表示される。モバイルアクセスの部分には、モバイル用の Active! mail の URL が表示されている。モバイル用の Active! mail を使用する場合はこのアドレスをアクセスする。



図4 Active! mail 設定画面

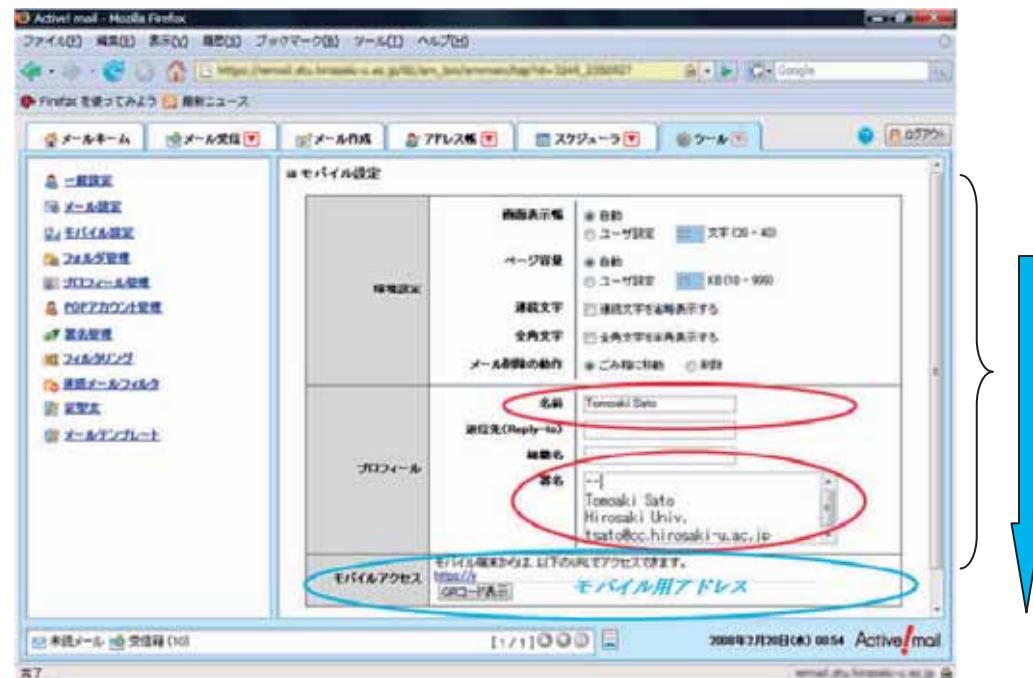


図5 Active! mail モバイル設定画面

Active! mail は携帯電話向けに QR コードが用意されている。図 5 にある「QR コード表示」ボタンをクリックすると、図 6 にある QR コードを表示される。これを携帯電話に搭載されているカメラで読み取る。読み取りが完了するとモバイルアクセス用の URL アドレスに変換される。



図 6 QR コード

モバイルアクセス用の URL アドレスにアクセスすると、図 7 のモバイル用の Active! mail のログイン画面が表示される。モバイル用の Active! mail は、携帯電話等のモバイル機器で使用することを前提に開発が進められていることもあり、非常に軽快に動作する。このため、ダイヤルアップ接続や海外等からの接続速度が遅い回線を使用してメールを送受信する場合には、通常のパソコンからもモバイル用の Active! mail を使用する方法もある。モバイル用の Active! mail は携帯電話等のモバイル機器だけでなく、パソコンからも問題なく動作する。

図 8 にモバイルアクセス用のメール受信画面、図 9 にモバイルアクセス用のメール作成画面を示す。モバイル用 Active! Mail は非常にシンプルである。シンプルにするために、機能も省略されているが、通常のメールの閲覧および返信において、特に問題になることはほとんど無い。

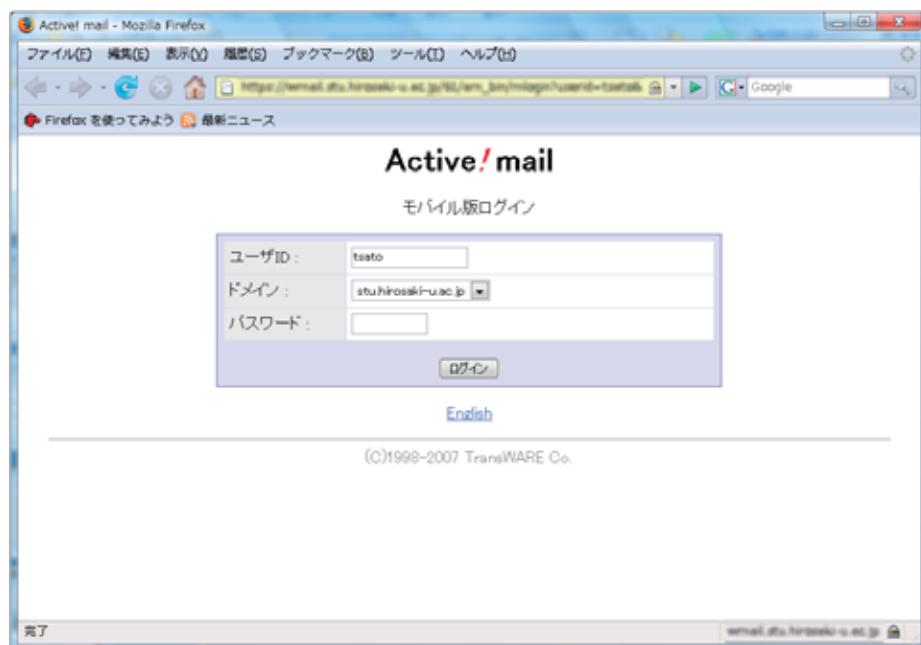


図7 モバイル版 Active! mail

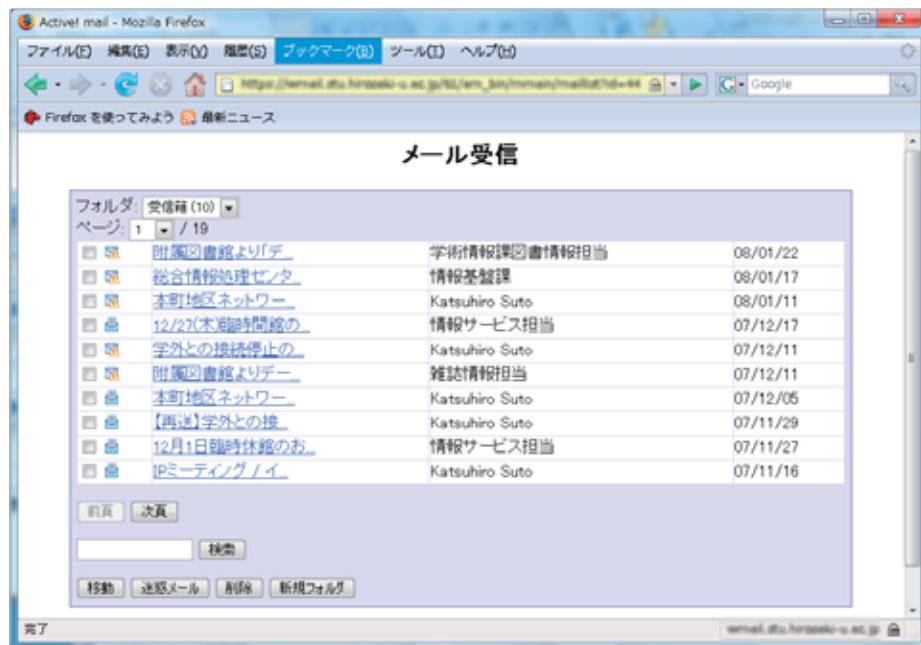


図8 モバイル版 Active! mail のメール受信画面



図9 モバイル版 Active! mail のメール受信画面

3.2 国外からの Web メール

海外出張先においても、メールの送受信は不可欠になってきている。しかし、国外から弘前大学のメールサーバへ接続する場合は、国際回線や出張先の ADSL 回線が低速である場合があり、メールの送受信でストレスを感じる場合がある。そのような海外出張先においてもモバイル版 Active! mail は非常に有効な手段である。最近は、容量の大きいファイルが電子メールに添付されることも多く、このことによって、メールの送受信において障害が発生することがある。Active! mailにおいては、ファイルの受信を要求しない限り、容量の大きいファイルのトラフィックが発生しないため、大容量添付ファイルによる障害は基本的に発生しない。

国外においては、公衆無線 LAN やホテルでサービスしているインターネットサービスは高価である場合がある。このような場合は、街中にあるインターネットカフェが便利である。ここでも Active! mail を使用することで、メールの送受信は可能である。ただし、次の点を注意する必要がある。

- 日本語の入力
- セキュリティ

近年の日本版以外の Windows といったオペレーティングシステムにおいても、日本語を表示することは可能になっている。基本的に日本語のページは自動的に日本語に変換されて表示される。いくつかのページにおいては、日本語の文字コードの設定が必要である。設定方法はブラウザによって異なるが、インターネットエクスプローラにおいては、「ページ」→「エンコード」から設定できる。

日本語の入力は別途設定が必要、またはインストールが必要である。しかしインターネットカフェのPCは基本的に設定やインストールができない。しかし、次のwebページにアクセスすることで、日本語の入力が可能になる。

- Ajax IME (図10)

<http://ajaxime.chasen.org/>

- Sumibi.org (図11)

<http://sumibi.org/>

インターネットカフェのPCは不特定多数による使用である。このため、パスワードを盗まれたりする可能性があることを十分に注意する必要がある。Webメールへアクセスした後は、帰国後すぐにパスワードの変更をすることが不可欠である。Webメールとは直接関係ないが、クレジットカードの番号を入力するようなサービスへのアクセスへも控えることが必要である。

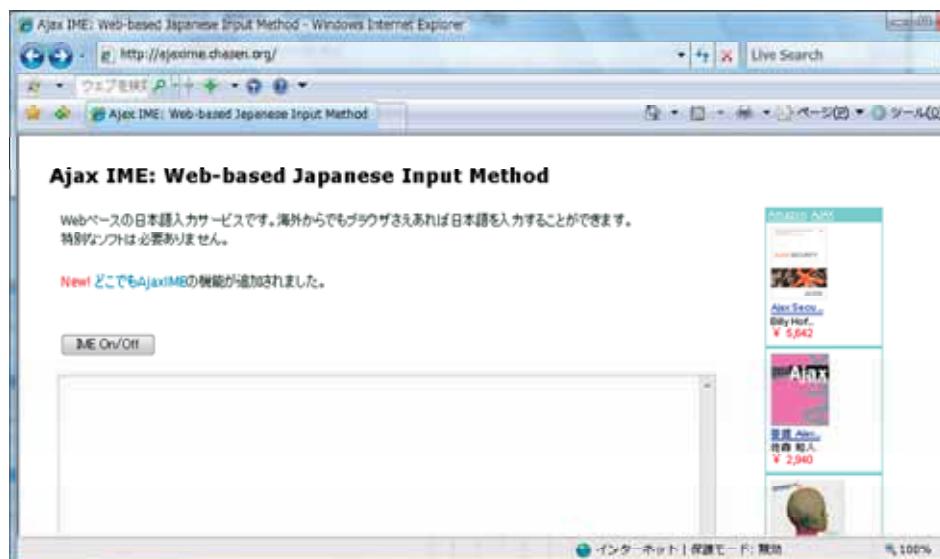


図10 Ajax IME



図 11 sumibi.org

4. おわりに

本稿では、外出先からのメールの利用に有効である Active! mail のモバイル機能について紹介した。このモバイル機能は、携帯電話などのモバイル機器だけでなく、国外からのアクセスなどにも有効であることを紹介した。また、国外からのメールのアクセスはインターネット接続の環境やコストの観点から、自分が所有する PC 以外からのメールの閲覧や送信が必要となる場合があるが、セキュリティに対して十分な配慮が必要である。

参考文献

- [1] “トランスウェア社 HP,” <http://www.transware.co.jp/>, 2008.
- [2] 佐藤友暉, “新システムにおけるメールシステムとスパム対策,” 弘前大学総合情報処理センター広報 HIROIN, No. 24 , pp.35-42, 2007.